

⑧ 新聞等による報道

◎work◎life◎
balance innovation

山形新聞朝刊
平成21年1月24日(土)
(掲載了承済)

山形新聞朝刊
平成21年10月1日(木)
(掲載了承済)

山形大が男女共同参画シンポ

大学の取り組み推進

山形大における男女共同参画の在り方を議論する場として、「男女共同参画シンポジウム」が二十三日、山形市の同大小白川キャンパスで開かれた。

同大は、男女共同参画を著実に進めるため、昨年十一月に男女共同参画推進準備室を設け、本格的な取り組みの第一歩を踏み出した。シンポジウムを企画したのは、同大の結城章夫学長が、「シンポジウムを契機に、大学における男女共同参画の在り方、地域の中で山形大が果たしていく役割について考えていきたい」とあいさつした。

基調講演では、板東久美子内閣府男女共同参画局長が、「多様な人材の活用は活力・競争力向上の生命線であり、男女共同参画はその基本的な柱」と強調。諸外国に比べ、女性の社会的参画が進んでいない現状を示し、「女性の活躍の推進は女性のためどころか、組織全体の持続的な発展戦略」と認識する必要があると指摘した。

パネルディスカッションでは、塩満典子お茶の水女子大樹氏がパネリストを務めた。教授、京木由季子副知事、坂本由美子山形新聞報道部記者、日本たばこ産業の大森征一施策、外国の取り組みや育児休業取得の体験談などを紹介。最後に、結城学長が同大の「男女共同参画推進宣言」を行った。

山形大における男女共同参画の在り方を議論する場として開催された「男女共同参画シンポジウム」＝山形市・同大小白川キャンパス

(平成21年)1月24日(土曜日)

女性研究者ら支援 山形大、学内託児システム運用へ

学生が保育

山形大の女性研究者や職員の子どもの一時保育を学内で行うサービスを開始を前に、託児サポーターとして研修を受けた学生に対する認定書授与式が10日、山形市の同大小白川キャンパスで行われた。

山形大の女性研究者や職員の子どもの一時保育を学内で行うサービスを開始を前に、託児サポーターとして研修を受けた学生に対する認定書授与式が10日、山形市の同大小白川キャンパスで行われた。

山形大の女性研究者や職員の子どもの一時保育を学内で行うサービスを開始を前に、託児サポーターとして研修を受けた学生に対する認定書授与式が10日、山形市の同大小白川キャンパスで行われた。

「託児サポーター」に認定書 山形大 学生31人に認定書

学内で一時保育

山形大の女性研究者や職員の子どもの一時保育を学内で行うサービスを開始を前に、託児サポーターとして研修を受けた学生に対する認定書授与式が10日、山形市の同大小白川キャンパスで行われた。

山形大の女性研究者や職員の子どもの一時保育を学内で行うサービスを開始を前に、託児サポーターとして研修を受けた学生に対する認定書授与式が10日、山形市の同大小白川キャンパスで行われた。

山形大の女性研究者や職員の子どもの一時保育を学内で行うサービスを開始を前に、託児サポーターとして研修を受けた学生に対する認定書授与式が10日、山形市の同大小白川キャンパスで行われた。

山形新聞朝刊
平成21年11月11日(水)
(掲載了承済)

文教ニュース

平成23年11月21日（月）

（掲載了承済）

平成23年11月21日（月曜日） 文教ニュース 第2164号（第三種郵便物認可） 26

山形大学男女共同参画シンポジウム
「女性研究者の活躍と裾野拡大」大学連携を通して」

長講演する笹井男女共同参画学習課長

挨拶する結城学

パネルトークの様子

パネルディスカッションの様子

山形大学は11月11日、山形市（山形市）を会場に、男女共同参画シンポジウム「女性研究者の活躍と裾野拡大」大学連携を通して」を開催した。シンポジウムは、山形大学が平成21年度に採択された、文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業として実施したもの。当日は、大学や高等学校、企業関係者など約100人が参加した。

はじめに、開会挨拶として、結城章夫山形大学長が、「山形大学の取組の成果や課題を公表し、各機関の皆様や地域の方々と共に共有することで情報交換を進め、共に前進して参りたい」と述べた。

第1部では、笹井弘之文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課長の「科学技術・学術分野における男女共同参画の推進」第3次男女共同参画基本計画の策定を踏まえて「一と題した基調講演が行われた。

その中で、笹井課長は、「科学技術・学術や大学の発展にとって多様な人材の育成・登用、そのための環境づくりは生命線。そのために重要なのがワークライフバランスの推進である」と述べた。

講演の後、県内5つの高等教育機関の運営関係者によるパネルディスカッションが行われた。パネリストによる各機関の取組の報告を通じた討論が行われた後、「男女共同参画に向けた大学連携・山形宣言」が提案され、参加者一同の賛同を得て採択された。

第2部では、「女子高校生・卒業生に向けて」女性研究者が疑問にお答えします」をテーマに、石島智子氏（東京大学大学院特任助教、はやのん氏（理系漫画家）、渡辺絵理子氏（山形大学准教授）のパネリスト及び4名の女子高校生によるパネルトークが行われた。

パネルトークでは、パネリストから高校生へ「研究の魅力や励ましの言葉を伝えるとともに、高校生からの質問にパネリスト自身の経験を踏まえたアドバイスを送るなど、シンポジウムは大盛況のうちに閉会した。

「男女共同参画に向けた大学連携山形宣言」本日のシンポジウム参加者は、交流と連携を深め、男女共同参画を推進していくことをここに宣言します。

1 男女共に学びやすく働きやすい環境づくりをめざして、一層取り組んでいきます。

2 男女共同参画の推進のため、連携とネットワークづくりを進めていきます。

2011年11月11日男女共同参画シンポジウム参加者一同

その他の新聞報道

- 平成21年11月11日 毎日新聞「教職員の仕事と子育て両立 学生が託児サポーター」
- 平成21年11月11日 河北新報「山形大に託児ルーム 女性教職員向け 学生が世話」
- 平成21年12月11日 朝日新聞「山形大に託児所開設 学生が保育」
- 平成21年12月11日 山形新聞「農学部系女子の仕事を知ろう！ 山形大農学部でシンポ」
- 平成22年 1月31日 河北新報「仕事と生活調和 12日シンポ」
- 平成22年 2月 1日 山形新聞「山形大学男女共同参画シンポジウムin2010」
- 平成22年 2月17日 河北新報「女性研究者を支えて 山形大でシンポ 北大の事例を紹介」
- 平成22年 2月19日 河北新報「研究と育児『両立困難』山形大女性教員・院生調査」
- 平成22年11月 7日 山形新聞「女性研究者育成と支援テーマに講演 山形大国際シンポ」
- 平成23年 1月28日 讀賣新聞「集まれりケジヨ 山大 研究者自身が魅力紹介」
- 平成23年 5月18日 山形新聞「自身の歩み紹介し『人生は長く短い』吉村知事 講演」
- 平成23年11月25日 文教速報「山形大学男女共同参画シンポジウムを開催」
- 平成24年 3月 2日 毎日新聞「山形【山形ワークライフバランス・イノベーションの発展に向けて】」

テレビ報道

- 平成21年10月 2日 山形放送 YBCニュース「山形大学サポーター実習風景」
- 平成22年 1月27日 さくらんぼテレビ SAYニュース「山形大学託児サポーター」
- 平成23年 5月17日 テレビユー山形 Nスタ「山形大学で県知事講義」